法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-09

ニュース・フレーム論の理論的射程と空間定位（前編）

藤田, 真文 / FUJITA, Mafumi

(出版者 / Publisher)
法政大学社会学部学会
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
Hosei journal of sociology and social sciences / 社会志林
(巻 / Volume)
68
(号 / Number)
3
(開始ページ / Start Page)
13
(終了ページ / End Page)
29
(発行年 / Year)
2021-12
(URL)
https://doi.org/10.15002/00025089

ニュース・フレーム論の理論的射程と空間定位（前編）

藤　田　真　文

1．ニュース・フレーム論の理論的射程

1.1．本論文の目的

本論文は，過去30年余りのニュース・フレーム論の展開を欧米を中心に整理し，ニュース・フレームの構築に関わるアクターなどの構成要素を確定することを目的とする。ニュース・フレーム論とは，「新聞記事やテレビニュースは，単に出来事を伝えるだけではなく，報道された出来事に対する『見かた』も同時に伝えている」ことを主張し，検証する理論である。B.Van Gorp は，「メディアは出来事そのものの情報だけでなく，それをどのように解釈すべきかについても公衆に提供している。フレーミングはメタコミュニケーションの一形態である」としている（Van Gorp 2007:65）。

ニュース・フレーム論では，ニュースが伝える出来事の「見かた」をニュース・フレーム（news frame），フレームを構築する行為をフレーミング（framing）と呼ぶ。ニュースが伝える出来事の「見かた」とは何かを解明することは，本論文でも考察していくニュース・フレーム論の中心的な研究課題である。当面ここでは多くのニュース・フレーム論で参照されている R.M.Entman の以下の定義を，フレームについての共通理解としておきたい（Matthes&Kohring 2008:264）。

> フレーミングは，本質的に選択 selection と顕出化 salience を含んでいる。フレーム化（to frame）とは，知覚された現実のいくつかの側面を選択し，コミュニケーションの文脈において，記述された要素を特定の問題の定義づけ，因果関係の解釈，倫理的評価，および/または解決方法の推奨を促すような方法でより際立たせることである。（Entman 1993:52，強調は原文）

筆者は，自身のニュース・フレーム論の構成を以下のように考えている。①ニュース・フレーム論の「認識論 epistemology」的探求：ニュース・フレームは，報道された出来事のどのような要素（what）をどのような方法（how）でフレーミングしているのかを考察する。②ニュース・フレーム論の「方法論 methodology」的探求：①の「認識論」的探求を基礎に，新聞記事やテレビニュースのフレーム，フレーミングは，どのような研究手法で操作化し検証できるのかを考察する。③

ニュース・フレーム論の事例分析への応用：②の「方法論」的探求を基礎に，具体的事例に関する新聞記事やテレビニュースのフレーム，フレーミングを析出する。

本論文は，これらの考察の前段階として，ニュース・フレーム論の先行研究を概観するものである。

1.2. フレーミングのプロセス・モデルへ

1.2.1 Scheufele のフレーミング・プロセス・モデル

かつてのニュース・フレーム論は，新聞記事やテレビニュースというテキストを分析し，ニュース・フレームを析出しようとする試みに集中する傾向があった。S.Lecheler と C.H.de Vreese は，その理由として「ニュースにおけるフレームの研究と分類が，発行された利用可能な資料（新聞記事やテレビニュース：筆者注）によって行われていたからである。明示的に表示されたフレームの研究は，フレームをもたらすより複雑なプロセスの研究よりも手が掛からず，既存資料はアクセスしやすく苦労が少なくてすんだ」とする（Lecheler&deVreese 2019:19）。

しかしながら，近年，ニュース・フレーム論の中心は，新聞記事やテレビニュースといったテキストの分析にとどまらず，ニュースの製作から消費までをフレーム概念によって一貫した過程として捉えようとする，プロセス・モデルへと移行している。例えば，近年正編と続編が刊行されているニュース・フレーム論の論集『Doing news frame analysis』の序文で，編者の P.D'Angelo と J.A.Kuypers は，所収された論考が共有するアプローチとして，D.A.Scheufele および D'Angelo のプロセス・モデルを使うことにしたとしている（D'Angelo&Kuypers eds. 2010:4）。

その中でも，フレーミングのプロセス・モデルの先駆けとなったのは，Scheufele が提案したモデルであり，その後多くの研究で参照されている。Scheufele は，あるプロセスの結果が次のプロセスの入力となる連続した過程としてフレーミングを概念化した。図 1 に示すように Scheufele のプロセス・モデルは，①フレーム構築（frame building），②フレーム設定（frame setting），③個人レベルのフレーミング効果（individual-level effects of framing），④個人のフレームとメディアのフレームの関連性（a link between individual frames and media frames）の 4 つの部分から構成されている（Scheufele 1999:114-115）。

①フレーム構築とは，「ジャーナリストが適用するフレームの作成や変更に影響を与えるプロセス」である。Scheufele は，H.Gans（1979：78-79）のニュース選択プロセスのモデルと P. Shoemaker と S.D.Reese（1996）のメディアコンテンツへの影響に関する研究を参照しながら，フレーム構築に関わる潜在的な影響源（potential sources of influence）として，以下の 3 つをあげる。（ｉ）ジャーナリスト自身＝ジャーナリストのイデオロギー，態度，職業上の規範など，（ii）メディア組織＝メディアの種類や政治的志向，あるいは組織のルーティン（organizational routine）など，（iii）外部の影響源＝政治的アクター，政府，利益団体，その他のエリートなど。

②フレーム設定とは，メディアの作成したフレームがオーディエンスに伝えられ，オーディエンスがフレームを獲得するプロセスを意味する。Scheufele も認めているように，この概念は名称か

らしても，アジェンダ設定（agenda setting）と類似している。実際 M.McCombs らは，アジェンダ設定がオーディエンスに与える社会問題（issue）の顕出性（salience）＝「存在」の認知に関係しているのに対して，フレーム設定はそれに続く「第 2 レベルのアジェンダ設定」であり，社会問題の「属性（特定の側面）」の顕出性に関係している。両者は一連のメディア・コミュニケーションのプロセスだとする（McCombs,Llamas,Lopez-Escobar,&Rey 1997;McCombs,Shaw,&Weaver 1997）。しかしながら，後述するように，ニュース・フレーム論の研究者は，フレーム設定とアジェンダ設定を統合しようとする McCombs らの提案を否定し，実証研究の結果から両者はまったく異なった影響をオーディエンスに与えると主張している。

③個人レベルのフレーミング効果とは，「オーディエンス（が獲得した：筆者注）のフレームが（オーディエンスの：筆者注）いくつかの行動・態度・認知変数に与える個人レベルの影響」である。個人レベルのフレーミング効果については，近年多くのニュース・フレーム研究者が，認知心理学的な実証実験などによって，そのメカニズムを明らかにしようとしている。

④個人のフレームとメディアのフレームの関連性は，個人が獲得したフレームがメディア・フレームにどのような影響を与えるかを考察するものである。Scheufele は，「オーディエンスとしてのジャーナリスト journalists as audiences」がニュースから獲得したフレームが，ニュース制作にどのような影響を与えるか（ジャーナリストやエリートがフレーミングプロセスに影響されやすいこと）を，この過程の例としてあげている。ただ，Scheufele は，同じ論文の中で，「オーディエンスからジャーナリストへのフィードバックループ」（p.103）ともいっており，それが単にジャーナリスト個人の「受け手から送り手への」内部的な変換に留まる概念ではないことも含意されているように思われる（以上のまとめは，Scheufele 1999:115-8 による）

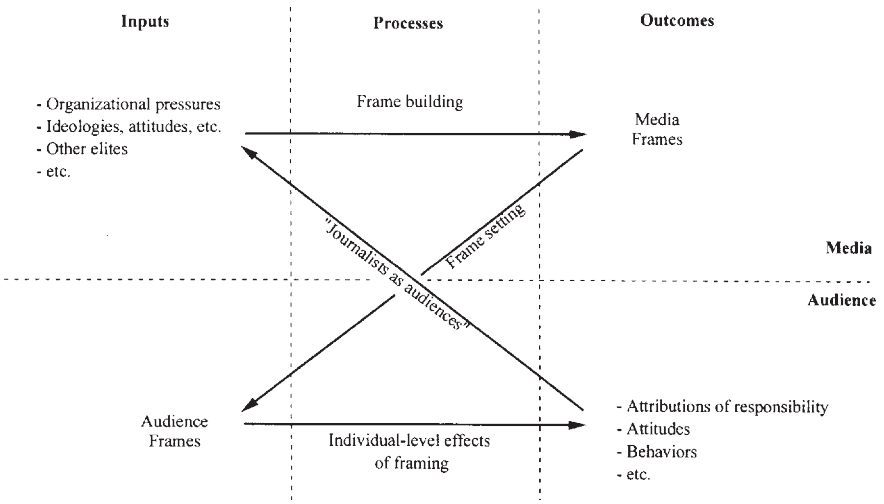

図1．フレーミングリサーチのプロセスモデル（Scheufele,D.A. 1999:115）

Scheufele のフレーミング・プロセス・モデルは，以下のよう総合的な理論的射程を持っている。①ジャーナリストがメディア組織内または組織外のアクターと相互作用した結果，またはジャーナリスト自身の態度・規範などが影響して作成されたニュース・フレームを（フレーム構築），②メディアがオーディエンスに伝達した結果，オーディエンスがフレームを獲得し（フレーム設定），③オーディエンスが獲得したフレームが，オーディエンスの行動・態度・認知を規定する（個人レベルのフレーミング効果）。たしかに，ニュースの中にフレーム（出来事の「見かた」）が内包されていることをいくら指摘したとしても，それがオーディエンスの社会課題の認知などに何らかの影響を与えないのならば，検証の意義はほとんどなくなるであろう。その意味で，Scheufele のフレーミング・プロセス・モデルの総合的な理論的射程は，非常に妥当なものと言えよう。

ただし，Scheufele のフレーミング・プロセス・モデルを応用する場合には，位相が異なる過程が含まれている点に注意しなければならない。①フレーム構築と②フレーム設定が，ジャーナリストとメディア組織内・外のアクターとの関係，またはジャーナリストとオーディエンスの関係を考察対象にした「社会過程」であるのに対し，③個人レベルのフレーミング効果は，オーディエンス「個人」の行動・態度・認知を考察対象にしている。この点は，そもそも過去数十年のニュース・フレーム論のレビューから始まった Scheufele の論文自体が，「メディア・フレーム」と「個人のフレーム」を分類軸として先行研究を整理していることからも明らかである（Scheufele 1999:106-7）。

1.2.2　その他のフレーミング・プロセス・モデル

D'Angelo は，知識社会学的な観点からニュース・フレーム研究のパラダイムを整理し，多くのニュース・フレーム研究に共通する「4つの実証的な目標」があるとした。その目標とは，①フレームと呼ばれるテーマ単位を特定すること，②フレームを生み出す先行条件を調査すること，③ニュースフレームがどのように個人の事前知識を活性化し，それと相互作用して，解釈，情報の想起，意思決定，評価に影響を与えるかを検証すること，④ニュースフレームが世論や政策課題の議論などの社会レベルのプロセスをどのように形成するかを検証すること，である。

D'Angelo は，「フレームは，コミュニケーション・プロセスにおいて，少なくとも4つの場所に存在する。それは，送り手（communicator），テキスト，受け手（receiver），そして文化である」という Entman の主張（Entman 1993:52）になぞらえて，この「4つの実証的な目標」が定位される「場所」を説明する（D'Angelo 2002:873）。両者を対照すると，①フレームの特定がテキスト，②フレームを生み出す先行条件が送り手，③個人の事前知識の活性化などが受け手，そして④社会レベルのプロセスの形成が文化にあたる。

Van Gorp は，「メディア制作者は情報源や公共の場の他のアクターと相互作用し，受け手はメディアのコンテンツや受け手どうしと相互作用する」とし，フレーミングは以下の4つの要素の相互作用を含んでいるとする。①テキストレベル（メディアに適用されるフレーム），②認知レベル（オーディエンスとメディア制作者の間のスキーマ），③メディア外のレベル（フレームスポンサー

（＝あるフレームを促進しようとするアクター：筆者注）の言説），④ある文化で利用可能なフレームのストック（Van Gorp 2007:64）。Van Gorpが整理した４点は，D'Angelo のフレームが存在する４つのコミュニケーション・プロセスの場所に近似している。

Van Gorp は，フレームを個人から切り離して文化とのつながりを強調する Goffman,E.（1974,1981）のフレーム論に従うことを提案する。ゴフマンは，「フレームは文化の中心的な部分であり，様々な方法で制度化されている」と述べている（Goffman 1981b：63）。ここで文化とは，集団や社会の集合的な記憶の中で共有されている，組織化された信念，コード，神話，ステレオタイプ，価値，規範，フレームなどの集合体を指す。Van Gorp は，スキーマは個人が自分の経験に対処する際の枠組みなのに対し，「フレームは，文化の一部であるため安定している。フレームは，社会的現実のより広範な解釈的定義を構成するとしている」（Van Gorp 2007:61-62）。

X.Wei は，フレーミングの主体をさらに細分化し，以下の８種類のフレームからなる「メディア言説のニュース・フレーム階層 news frame hierarchies in media discourse」を提案している（図２参照）。①情報源主体のフレーム，②コントロール主体のフレーム，③メディア組織のフレーム，④（ジャーナリストのような）個々の伝え手の認知フレーム，⑤ニューステキストのフレーム，⑥影響を与える主体のフレーム，⑦（共有された信念や常識のような）ある社会・文化コンテクストにおける社会のメンバーの一般的フレーム，⑧オーディエンスのフレーム（Wei 2020:49）。

Wei のモデルの特徴は，情報源とメディアの間に両者間のフレームの伝達に影響を与える「コントロール主体」（例えば，政府や政党），同じくメディア組織とオーディエンスの間に（例えば，資本，人間関係，他の社会的資源を使って）「影響を与える主体」という媒介アクターを置いた点であろう（Wei 2020:39）。

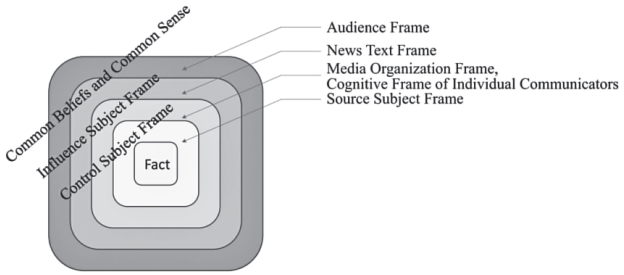

図2：メディア言説におけるニュース・フレーム階層（Wei 2020:50）

D.Chong と J.N.Druckman は，コミュニケーション研究者と政治学研究者は，「フレーム」という言葉を次の２つの意味で使っているとする。①コミュニケーションにおけるフレームまたはメディア・フレーム＝話し手（政治家やメディア）が，ある問題や出来事に関する情報をオーディエンスに伝える際に使用する言葉，イメージ，フレーズ，表現スタイル（Gamson&Modigliani 1987;1989）。②思考のフレームまたは個人のフレーム＝ある状況に対する個人の認知的理解

(Chong&Druckman 2007:100-1)。これは，筆者が Scheufele のフレーミング・プロセス・モデルが，フレーム構築・フレーム設定という「社会過程」とオーディエンス「個人」へのフレーミングの効果の２つの位相からなると整理したことと重なる。

C.Baden が提案するニュースフレーム分析の「意味ネットワークアプローチ semantic network approach」は，研究者が言説的なコンテクストにフレームを自らの研究を位置づけることを目的としたニュースフレーミング分析の統合的アプローチである。そのコンテクストとは，①オーディエンスのフレーム構築に関する認識主義的視点 cognitivist perspectives，②ジャーナリストがニュースフレームを作成し，オーディエンスがそれを理解するための幅広い文化的レパートリーに関する社会学的概念 sociological conceptions，③文化的に馴染みのあるフレームが符号化され，呼び出され，伝達される一連の言説に関するテキストベースの研究 text-based study である（Baden 2018:4)。

ところで，1980年代末以降に提起された Scheufele らのフレーミング・プロセス・モデルに先立つこと10年以上前，すでに H.Molotch と M.Lester が，先駆的にプロセス・モデルと共通する考え方を打ち出していたことは注目に値する。

Molotch と Lester は，ニュースになる出来事には，３つの主要な行為者 agency が関わっているとする。①ニュース促進者（news promoters）は，「ある出来事に注意を払い，その出来事を他の人が利用できるようにする手助けをする」行為者（例えば政治家や政府の広報担当者）を意味する。②ニュース収集組み立て者（news assembler）は，ニュース促進者から提供された資料をもとに，出版や放送を通じて公共の出来事に変える人々（記者，編集者など）である。③ニュース消費者（news consumers）は，読者や視聴者である（Molotch＆Lester 1974:104-106)。

Molotch と Lester の「促進者（promoters)」と「収集組み立て者（assembler)」は日本語訳でそのニュアンスを出すのが難しい（「ニュース・プロモーター」と表記したほうが良いくらいである)。だが，「促進（promote)」という言葉には，これまで情報源と呼ばれてきた個人や組織が受動的にニュース組織の取材対象となるだけではなく，報道を促すように能動的に情報を発信・コントロールしていることが含意されている。また，「収集組み立て（assemble)」が，ニュース組織が他の個人・組織が発信した情報をかき集め，それを組み合わせる形でニュースにしていることを含意している。以後の研究でも検討され継承されるべき用語ではないかと考える。

1.2.3　プロセス・モデルに関する小括

Scheufele を先駆けとするフレーミングのプロセス・モデルは，①メディア組織内・外のアクターとジャーナリストとの相互作用によってニュース・フレームが構築される過程，②メディアによってニュース・フレームが伝達され，オーディエンスがフレームを獲得する過程，③オーディエンスが獲得したフレームによって社会課題などを認知し個人の行動・態度を形成する過程を，フレームという概念で総合的に把握しようとする。Molotch と Lester は，フレーミング・プロセス・モデルに先立つこと10年以上前，①ニュース促進者（news promoters)，②ニュース収集組み立て者

（news assembler）③ニュース消費者（news consumers）というフレーミングの行為者をすでに提起していた。その用語が持つ含意とともに，さらに理論的な包摂を検討すべきであろう。

D'Angelo，Van Gorp，Wei らは，これに④メディアやオーディエンスが属する社会の「文化」の影響を加えている。Entman にならって，ニュース・フレームの所在を，「送り手」「テキスト」「受け手」「文化」に定位することは，メディア研究者にとっては比較的馴染みやすい空間認識ではある。それと同時に，ニュース・フレーム論では，送り手がフレーミングを行う際にメディア組織の外部との相互作用を特に重視する傾向があることも指摘しておきたい。

Chong＆Druckman は，上記の①と②を合わせ「コミュニケーションにおけるフレームまたはメディア・フレーム」，③を「思考のフレームまたは個人のフレーム」とする。Baden は，上記の①と②の研究領域を「社会学的概念」，③の研究領域を「認識主義的視点」，④の研究領域を「テキストベースの研究」と整理している。

S.D.Reese が「フレーミングの価値は，（中略）互いに連絡を取り合う必要がある分野の各部分－定量的なものと定性的なもの，実証的なものと解釈的なもの，心理学的なものと社会学的なもの，そして学術的なものと専門職業的なもの－の橋渡しをする刺激的なモデルだというところにある」としているのも，ニュース・フレーム論がカバーする研究領域の広さについて言及したものと言えよう（Reese 2007:148）。また，D'Angelo と Kuypers は，プロセス・モデルが「理論的・メタ理論的な言説や実証研究において，ニュースフレーミングのプロセスやサブプロセスが広く概念化され，議論されるためのこの領域の特有の用語vernaculaを提供している」（D'Angelo&Kuypers eds. 2010:4）と評価している。

1.3. アクターの相互作用とフレームの競合

1.3.1 社会構築主義アプローチの強調

前項で言及した Scheufele をはじめとするフレーミングのプロセス・モデルには，①ジャーナリストとメディア組織内または組織外のアクターとの相互作用（フレーム構築），②メディアによるオーディエンスへのフレーム伝達とオーディエンスによる獲得（フレーム設定）という，２種類のアクター間の社会関係が含まれていた。そこから展開して，近年のニュース・フレーム論では，自らの理論的基礎を社会構築主義（social constructivism）に依拠していることを言明する研究者が目立つ。

Scheufele は先述のフレーミング・プロセス・モデルを提言した論文の中で，D.McQuail（1994）のメディア効果研究の整理を引用し，「現在の第４段階は1980年代初頭に始まったもので，『社会的構築主義 social constructivism』を特徴としている。この段階でのメディアと受け手の記述は，マスメディアの強い効果と限定的な効果の両方の要素を兼ね備えている。マスメディアは社会的現実を構築することで強い影響を与えている。（中略）他方で，メディアの効果は，マスメディアと受け手の間の相互作用によって制限される。」とした。また，「政治的コミュニケーションの領域では，フレーミングはこの社会的構築主義に基づいて定義され，運用されなければならない。マスメ

ディアは，読者や視聴者が公共の出来事を解釈し，議論するための参照枠を積極的に設定する」（Tuchman 1978:ix）との Tuchman の主張も引用している（Scheufele 1999:105）。[1)]

社会構築主義への依拠をもっとも早い段階で表明した W.A.Gamson は，「構築主義者 constructionist のモデルは，メディアと世論の関係を 2 つの相互作用するシステムの相互作用として捉え直す」とする。相互作用する 2 つのシステムとは，①出来事をフレーム化し，常に意味のある文脈の中で情報を提示するメディア言説のシステム，②相互作用する個人によって構成される公共圏 public である。公共圏では，個人は，メディアの言説に能動的にアプローチし，公共の出来事や問題について，自分なりの意味を構築するためにメディアの言説を利用するとする（Gamson 1988:166）。

Gamson は，「構築主義者のパラダイムは，政治的言説の形成と支配的な政治文化の再生産におけるマスメディアのフレームの役割の分析（Tuchman 1978; Gitlin 1979,1980; Hyman and Sheatsley 1947）やイギリスの「批判的文化研究」の伝統（Hall,Hobson,Lowe, and Willis 1980）を反映している」「この文化分析で用いられている概念（フレーム，シナリオ，神話，メタファー，イメージ，凝縮されたシンボル）は，政治的思考に焦点を当てた構築主義者が用いる概念と同じである」とも述べている。先に引用した「メディアの言説に能動的にアプローチする個人の相互作用によって公共圏が構成される」との Gamson の主張は，この中でも特に批判的文化研究の成果を取り入れたものと言える（Gamson 1988:165)。

K.S.Johnson-Cartee は，A.Schutz（1962）の「視野の相互依存性 reciprocity of perspectives」や P.L.Berger と T.Luckman（1966）の「現実の社会的構成」を引用しながら「リアリティは，コミュニケーションの社会的過程から生み出される」とする。また，Gergen（1985a,1985b）に依拠しながら「ある人が知っているもの，知っていると思い込んでいるものは，コミュニケーション過程によって形作られる。したがって，人々が反応するものは，社会的相互作用のプロセスによって生み出される主観的リアリティである」「社会探求のこの領域に興味がある研究者は，社会構築主義者 social constructionist と言ってよい」ともいう（Johnson-Cartee 2005:1）。

Johnson-Cartee は，現代社会において人々が社会のリアリティを構築する際に依拠するコミュニケーションとは，個人間の社会的相互作用ではなく，メディアによって「媒介された相互作用（mediated interactions）」だとする（Johnson-Cartee 2005:4）。そして，ニュースもまた社会的構築物であり，構築主義的 constructionism パラダイムは，「世論の理解のためには，政治文化の人工物，つまり公衆の言説の言語，シンボルおよび神話を検証しなければならない」。そのために研究者は「政治的言説を形作り，支配的な政治文化を再生産するメディアフレームの役割」を検証すべきだとする（Johnson-Cartee 2005:15）。Van Gorp は，「フレーミングの本質は社会的相互作用にある」

---

[1] 論考の中には，どのような社会構築主義の業績を参照しているのか記述がなかったり，日本では社会「構成」主義（social constructionism）に分類される先行研究に依拠したものもあるが，ここでは構築主義と構成主義を区別せずニュース・フレーム研究者の主張をたどることにしたい。

とし，「メディアの作り手は情報源や公共の場の他のアクターと相互作用し，受け手はメディアのコンテンツや相互に作用する」と，Gamson や Johnson-Cartee と同様の見解を示している（Van Gorp 2007:64）。

前項で言及した Molotch&Lester の先駆的研究は，1980年代末以降ニュース・フレーム論が社会構築主義を取り込む10年以上前に，すでにエスノメソドロジーの観点からニュースが社会的に構築されたものであることを指摘していた。

> 報道されるべき客観的な世界が存在するという信念を疑うことで，私たちはニュースを構築された現実として捉えることができる。公共の出来事は，本来備わっている客観的な重要性からではなく，それらが果たす実用的な目的のために存在すると考えられる。マスメディアのニュース・コンテンツは，ニュース促進者，ニュース収集組み立て者，ニュース消費者の側で行われる実践的，目的的，創造的な活動の結果であると見なすことができる（Molotch＆Lester 1974:101）。

ここで言われる「実用的な目的」とは，無数に起こる出来事の中で特定の出来事を選び，その出来事が過去の出来事とどのような関連があるかを説明し，将来どうなるかを予測することを指す。現在を過去や未来と接続することで，出来事に対し自分たちがどのように対応すべきかを決めることができる。Molotch と Lester は，現代社会におけるニュースの役割について，「日常生活において，ニュースは私たちが直接経験していないことを教えてくれ，その結果，遠く離れた出来事を観察可能にし，意味のあるものにしてくれる。逆に言えば，私たちはニュースでお互いを満たしている」という（Molotch＆Lester 1974:101）。Molotch と Lester は，「私たちは（H.Garfinkel 1967 などに倣って），『本当に起こっていること』とは，人々が関心を寄せることと同一であると提案する」とする（Molotch＆Lester 1974:102）。

世界では，毎日のように無数の新しいハプニング happening が発生している。そのハプニングが何らかのコンテクストに位置付けられ認識された時に，ハプニングは出来事 occurrence となる。そして Molotch と Lester は，出来事が何らかの目的のために創造的に利用された時，それを「イベント event」と呼ぶ（Molotch＆Lester 1974:102）。例えば，すぎていく一日一日（ハプニング）は変わらないはずだが，特定の日が「誕生日」として認識される（出来事）。誕生日として認識された日は，豪華なパーティーを行う日として利用される（イベント）かもしれない。

イベントには，誕生日のように個人的なイベントもあるが，ある共同体によって共有されるパブリック・イベント public event もある。Molotch と Lester は，「発生した出来事を公共のイベントとして推進する作業は，推進する側のイベントニーズから生じる。プライベートなイベントとは違い，多くの人に体験してもらうことになる。この公共の潜在的なインパクトは，公共のためにニュースを発信する人々（ジャーナリスト：筆者注）の仕事の社会的増幅効果が，自分自身や対面する仲間のためにニュースを発信する人々の効果よりもはるかに大きいことを意味している」とし，あ

る出来事がパブリック・イベントとなるためにはニュースが重要な役割を果たすとしている（Molotch＆Lester 1974:103)。

Molotch と Lester は，ニュースとなる出来事は，出来事の関係者（ニュース促進者），ニュース収集組み立て者，ニュース消費者，それぞれの実践的，目的的，創造的な活動によって生み出されるものだとしている。

1.3.2　フレーム競争（抗争）の重視

前項でニュース・フレーム論は，社会構築主義に依拠し，ジャーナリストとメディア組織内・外のアクターとの相互作用や，メディア組織が発信したニュースとオーディエンスとの相互作用によるフレーミングを強調する傾向があることを述べた。後者の相互作用では，オーディエンスは，メディアのニュース・フレームに対して能動的にアプローチし，社会問題について自分なりの意味を構築するとされていた。

このような理論的背景から，ニュース・フレーム論はさらに，ある社会の中に社会問題や出来事について唯一のフレーム（「見かた」）が存在するのではなく，複数のフレームが競争している（より政治的な意味では対抗している）状況を想定する。

後に詳述する Entman のカスケード・モデルは，「市民が社会問題や出来事についての独自の『対抗フレーム』（counterframe）を構築できるように，行政府から独立した十分な情報をメディアが提供すべきだと提案している」「市民が必要としているのは，文化的に共鳴される（culturally resonant）言葉と映像で構築され，ホワイトハウスの解釈に対する別の妥当な選択肢として広く理解を得られる十分な強さ（magnitude）を持った対抗フレームである」としている（Entman 2004:17)。Entman は，アメリカの外交問題において，少なくとも国会議員，政策専門家，ロビイストなどの他の政治的エリートと政府との間に意見の相違が生まれ，複数の「対抗フレーム」が産出される可能性を想定している（Entman 2004:12-3)。

Gamson と D.Stuart は，アドボカシーのネットワーク（advocacy networks）という概念を用いながら，例えば安全保障問題では，一方には政府高官，企業，資金力のある民間グループからなる軍産複合体，他方には公益団体や社会運動組織がある。だが，両者の資源（resource）は不釣り合いで，それがメディアの場での優位性に直結するという。このようなアドボカシーのネットワークは，特定の社会問題を理解するための解釈パッケージ＝フレームを支える象徴的な装置を用いて，象徴の競争を行なっているとする（Gamson&Stuart 1992:57-60)。

Molotch と Lester は，出来事に対して異なった，時には競争する立場が少なくとも 2 つ存在する場合，社会問題が発生するという。Molotch と Lester は，「目前の目的が競合すると，何が起こったかについての説明に争いが起こったり，同じ問いのバリエーションとして，重要なことがまったく起こらなかったかどうかについての論争が起こったりする。このような状況下で，社会問題が形成される」と述べている（Molotch&Lester 1974:103)。

M.C.Nisbet は，「ボトムアップ bottom up」フレーミングによって，社会問題のフレーミング競

争に市民が参入できる可能性があると主張している。例えば，草の根の社会運動では，フレームを使ってメンバーを動員したり，グループをアドボカシー連合 advocacy coalitions につなげたりする。「ブログ，オンライン・ビデオ，ソーシャルメディア・サイトなど，ユーザーが主体となり，ユーザーがコントロールする新しいデジタル・メディアでは，気候変動や貧困などの問題をめぐる言説上の争いにおいて，『ボトムアップ』のオルタナティブ・フレームがより大きな影響力を持つようになるかもしれない」という（Nisbet 2010:48-49）。

フレーム競争という概念が調査法にどのように反映されているかの見ると，W.L.Bennett,R.G.Lawrence と S.Livingston は，フレーミングの事例研究に Entman の「対抗フレーム」概念を適用し，アブグレイブ刑務所における捕虜「虐待」事件について全米規模の主要メディア（The Washington Post，CBS Evening New など）が対抗フレームを伝えたかどうか，また，伝えた理由や伝えなかった理由を検証した。彼らは，「意味のあるフレーム競争には，少なくとも 2 つの首尾一貫したフレームが, 頻繁かつ顕著に提示されることが必要である」としている（Bennett,Lawrence＆Livingston2006:472）。

Chong と Druckman は，ニュース・フレームの効果を検証する実験的な研究では，これまで「ある問題についての代替的な立場を表す複数のフレームを個人が受け取るような競争的な環境での，フレーミングに関する研究はほとんどない」と指摘し，「競争的環境におけるフレーミングがどのように機能するか」を検証するような調査モデルを提案している（Chong&Druckman 2007:99）。

一方で，K.Carragee と W.Roefs は，ニュース・フレーム論が，個人に対するフレームの効果研究に集中し，「メディアのフレームとより広い範囲の政治的・社会的権力の関係を軽視している」と批判する（Carragee&Roefs, 2004:214）。彼らはまた，「ヘゲモニーを握った意味の生産，配布，解釈という文脈でフレーミング・プロセスを研究することで，研究者はアメリカ社会におけるニュースと権力の分配との関係を描くことができ」るとする（Carragee&Roefs, 2004:222）

Carragee と Roefs は，「フレームがニュースを支配できるかどうかは，スポンサー（ニュース促進者と同義：筆者注）の経済的・文化的資源，スポンサーのジャーナリズム活動に関する知識，ジャーナリズム活動そのもの，フレームがより広範な政治的価値と共鳴するかどうかなど，複雑な要因に左右される」とする（Carragee&Roefs, 2004:216）。その上で具体的な研究方法として，フレームを特定のフレーム・スポンサーにまで遡って追跡したり，フレームを促進するためにスポンサーが利用できる経済的・文化的資源を考慮したりすることが必要だと主張している（Carragee&Roefs, 2004:219）。また，カルチュラル・スタディーズの研究に言及しながら，ヘゲモニーを持ったフレームに対するオーディエンスの抵抗あるいは受容や，社会運動におけるフレームの生産にも目を向けなければならないとする（Carragee&Roefs, 2004:223,225）。

Reese は，Carragee と Roefs の主張に賛成し，フレームを「比較的穏当な資源，社会的行為者が多かれ少なかれ利用できるツール」とする構築主義の視点と，「フレームは支配的，ヘゲモニー的であり，より大きなエリート構造に結びついていると考え」る批判的視点を分野横断的に認識することで，フレーミング研究プログラムが豊富で生産的になるとしている（Reese, 2007:149）。

Reese は，ヘゲモニーは「社会システム内の倫理的，政治的そして知的リーダーシップを伴う。支配的集団は，単に自分たちの階級イデオロギーを他の集団に単純に押しつけるわけではなく，イデオロギー的要素を散りばめて，世界観へと統一する原理へと接合する」という（Reese 1990:394）。政治的エリートのフレームが「自然なもの」として受け入れられることで，ヘゲモニーが確立される。

1.4. ニュース・フレームの構造

1.4.1 ニュース・フレームの構成要素

ここまでは，主にプロセス・モデルにしたがって，ニュース・フレーム論の展開を整理してきたが，ニュース・フレーム論ではニュース・フレームそのものについてどのような理論が展開されているのかも概観してみたい。

本論文の冒頭でも述べたように，多くのニュース・フレーム論で参照され，また調査研究に適用されているのが，Entman のフレーミングの定義である。

> フレーミングは，本質的に選択 selection と顕出化 salience を含んでいる。フレーム化（to frame）とは，知覚された現実のいくつかの側面を選択し，コミュニケーションの文脈において，記述された要素を特定の問題の定義づけ，因果関係の解釈，倫理的評価，および/または解決方法の推奨を促すような方法でより際立たせることである。（Entman 1993:52，強調は原文）

Entman は，この定義をさらに細分化し，フレーミングには，「実体的 substantive」と「手続き的 procedural」という 2 つの階層があるとした。そして，実体的フレームは，政治的出来事，社会問題，およびアクターを変換する convert 際に，以下のような基本的機能のうち少なくとも二つの機能を遂行するとする。①結果または状況を問題のあるもの（problematic）と定義する，②原因（cause）を特定する，③倫理的判断（moral judgement）を持ち込む，④解決策（remedy）または改善（improvement）を推奨する。一方，手続き的フレームは，政治的アクターの正統性（legitimacy）の評価を提供するとしている（Entman 2004:5）。

Entman は，この中でもすべてに先立つ「問題の定義」と公共政策への支持（あるいは反対）に直接結びつく「解決策」が重要だとする。Entman はさらに，「フレームを作り上げる言葉や映像は，政治的コンフリクトにおいてある勢力に対する支持または反対を促進するような力を持っている（中略）この力は文化的共鳴（cultural resonance）と強さ（magnitude）によって測定できる」とした（Entman 2004:6）。

Gamson は，公の場での言説には，そのために利用される比喩，キャッチフレーズ，原理原則への訴えなどのカタログがあるとする。このカタログの要素は組織化されており，クラスター化されている「パッケージ」となっている。ある社会問題の「文化 culture」とは，社会問題とその社会

問題に影響を与える公共の出来事を理解するための「解釈パッケージ」の構成要素の完全なセットを意味する。Gamson は，パッケージの中核には，「関連する出来事を理解するための中心的な組織化されたアイデアまたはフレームがある。フレームは，その問題が何であるかを示唆している。フレームは『この問題に関する論争や懸念の基本的な原因は何か』という問いに答える」としている（Gamson 1988:165）。

さらに Gamson は，この解釈パッケージが公的な言説の中で存続するためには，「時間をかけて意味を構築し，新しい出来事を解釈の枠組みに組み入れるという課題に直面している」。この課題を解決するために，パッケージにはストーリーライン，シナリオが含まれているとする（Gamson 1988:166）。比喩，キャッチフレーズ，シナリオなどから構成される「解釈パッケージ」をニュース・フレームの要素としたことが，Gamson のニュース・フレーム論の特徴となっている。

Z.Pan&G.Kosicki は，ニュース・フレームには，次のような構造があるとした。①統語的構造（syntactical structures），②脚本構造（Script structures），③主題構造（Thematic structures）④レトリック構造（Rhetorical structures）（Pan＆Kosicki 1993 : 59-62）。この点は，Gamson のニュース・フレーム論と共通する部分を持つ。

Nisbet（2010）は，フレーミング研究の起源として Goffman（1974）の研究に言及しながら，フレームは個人が問題や出来事，トピックを見つけ，認識し，識別し，ラベルを貼ることを可能にする「解釈のスキーマ」だとしたゴフマンの考え方をニュース・フレーム論に適用する。Nisbet は，「フレームは，オーディエンスが問題を理解し議論するための『解釈スキーマ』として，ジャーナリストが複雑な事象を興味深く魅力的なニュース報道に凝縮するために，政策立案者が政策オプションを定義し意思決定を行うために，そして専門家が他の専門家や幅広い聴衆に伝えるために使用される」とした（Nisbet 2010:46-47）。

そして Nisbet は，Entman と同様に，「フレームは，特定の検討事項や議論を他よりも重要視することで，複雑な問題を単純化する。その過程で，フレームは，なぜその問題が重要なのか，その問題をどのように異なる方法で定義することができるのか，その社会課題に関連する問題の責任は誰にあるのか，何にあるのか，その問題に対して何をすべきなのかを伝えるのに役立つ」とフレームの効果を定義づけている（Nisbet 2010:47）。

また，Gamson のいう社会問題の「文化」との関連で，Nisbet は「メッセージやニュースストーリーが示唆する問題に関する推論と，特定の視聴者の中にある既存の精神的な連想との間に適合性があれば，問題はうまくフレーム化されている」「逆に，一般の人々がすでに価値を認めていたり，理解していたりすることと関連性のない結びつきをフレームが描いている場合，そのメッセージは無視されたり，個人的な意味を持たなかったりする可能性がある」と主張している（Nisbet 2010:47-48）

Van Gorp は，ジャーナリストはニュース・メッセージを構成する際に，多くの要素をフレームに関連するようにメディア・コンテンツに埋め込む。そして，ジャーナリストがテキストに適用したフレームは，「フレーム・パッケージ」として表現することができるとする。フレーム・パッケ

ージは，①顕在的なフレーミング装置（言葉の選択，比喩，例示，説明，論証，視覚的イメージや物語装置など），②顕在的または潜在的な推論装置（問題の定義など Entman の実体的フレームの４つの要素），③パッケージ全体を表示する暗黙的な文化現象（Gamson の社会問題の文化）から構成される。Van Gorp は，「フレーム分析の主要な部分は，このフレーム・パッケージを再構築することである」と言明している（Van Gorp 2007:）。

1.4.2　報道対象とニュース・フレームの関係（認識論的探求の予備的考察）

新聞記事やテレビニュースは，報道対象となった出来事 event をジャーナリストが直接観察・経験して制作されたものより，出来事について語った他者の言説を利用する形で記事になる場合が多い。報道した出来事をジャーナリストが直接観察・経験するケースとして考えられるのは，①出来事が発生した現場に偶然居合わせた，②出来事が発生することがあらかじめわかっていた（いわゆるメディア・イベント，スポーツ報道などがこれに当たる）など，ごく限られた場合であろう。一方出来事について語る他者とは，①出来事の目撃者や経験者である情報源，②記者会見やプレスリリースで出来事についての見解や資料を発信するニュース促進者などである。

「ほとんどのニュースは，ニュースとなる出来事の直接的な観察に基づいておらず，ディスコースから情報を引き出してきている。情報源のテクストを処理する主な戦略は，選択，再構成，要約，自分たちにわかりやすい翻訳，文体・レトリックの（再）公式化（整理）である」（Van Dijk 1988:114–118）

Wei は，出来事について語った他者の言説が報道されるプロセスでは，「事実対象の主体の認知フレームを，テキスト対象の認知フレームに変換する必要がある。つまり，ニュース言語システムを使って，事実の認知モデルを叙述し，再構築する必要がある」とする。ある出来事がニュースになるためには，出来事を認知した情報源やニュース促進者のフレームを，報道できるテキストの形にするする必要がある。Wei は，「認知レベルでは，ニュース・テキスト・フレームは，ニュース物語モデルであり，それによれば，発信者は，事実（元の事実と認知フレームを含む）をテキストの形で再現することができる。その結果，ニュース・テキストは，事実情報だけでなく，認知的フレームを記号の形で再現することになる。正確には，ニュース・テキストはまず認知的フレームを再現し，次に具体的な情報を再現する」と指摘している（Wei, 2020:58）

Johnson-Cartee は，Walter Lippman や John Dewey が提唱し西側民主主義社会で採用されているジャーナリストの「職業的客観性の理念」は，T.Kuhn のいうパラダイム（客観性の神話）であるとする。Johnson-Cartee は，「ジャーナリストは常日頃自分たちの記事を『ニューススストーリー』と言う一方で，研究者や社会批評家が彼らのコミュニケーション成果物（記事）をストーリーや物語と言うと明らかに不快そうになる」。「ほとんどの場合，ジャーナリストは，自分たちの記事ではリアリティを単に反映しているだけだという考えを持っている。（中略）ジャーナリストは，繰り返し自分たちは単に事実を，何よりも事実を報道していると主張する。自分たちは人間の出来事の単なる記録者なのだと述べる」（Johnson-Cartee 2005:112-113,156-157）。

例えば，ジャーナリストが事実に基づいて記事を書いていると確信できる方法の一つは，公的な情報源を引用することである。Johnson-Cartee は，「権威あるまたは公的な情報源の利用は，『正統性ある，公的な事実』を生み出す。公的な情報源によってニュースを念入りに仕上げれば，『客観的なニュースストーリー』を作ることができると，ジャーナリストは信じている」と指摘する（Johnson-Cartee 2005:139）。

しかしながら，公的な情報源の言説を引用した出来事の報道は，先に Wei が述べていたように，出来事についての情報源のフレームも同時に伝達している可能性がある。Wei も，Johnson-Cartee も，ニュースが情報源やジャーナリストのフレームによって形成されていることを否定するのではなく，「客観性の神話」にとらわれて，そのことを認識できないことの方が問題だとしているのである。むしろ，ニュースは何らかのフレームに依拠して制作されていることが常態と見なすべきなのである。これは，ニュース・フレーム論の研究倫理の問題につながる。

【参考・引用文献】

Baden,C.,2018,“Reconstructing Frames from Intertextual News Discourse A Semantic Network Approach to News Framing Analysis” D’Angelo,P.ed.,*Doing News Framing Analysis II:Empirical and Theoretical Perspectives*, New York:Routledge,3-26.

Bennett,W.L.,R.G.Lawrence,&S.Livingston,2006,“None Dare Call It Torture: Indexing and the Limits of Press Independence in the Abu Ghraib Scandal,” *Journal of Communication*,56(3), 467-485

Berger,P.L.,&T.Luckman,1966,*The Social Construction of Reality: A Treatise in the Sociology of Knowledge*,Garden City, N.Y.:Anchor Books.（山口節郎訳，1977,『現実の社会的構成　知識社会学論考』新曜社.）

Carragee,K.,&W.Roefs,2004,“The Neglect of Power in Recent Framing Research,” *Journal of Communication*, 54(2),214-233.

Chong,D.,&J.N.Druckman,2007,“A Theory of Framing and Opinion Formation in Competitive Elite Environments,” *Journal of Communication*,57(1),99-118.

D’Angelo,P.,2002,“News Frame as a Multi-paradigmatic Research Program: A Response to Entman,” *Journal of Communication*, 57(1),870-888.

D’Angelo,P,&J.A.Kuypers,eds.,2010,*Doing News Frame Analysis :Empirical and Theoretical Perspectives*, New York.Routledge.

Entman,R.M.,1993,“Framing:Toward Clarification of a Fractured Paradigm,” *Journal of Communication*, 43(4):51-58.

Entman,R.M.,2004, P*rojections of Power: Framing News,Public Opinion,and U.S. Foreign Policy*,Chicago, IL:The University of Chicago Press.

Gamson,W.A.,1988,“The 1987 Distinguished Lecture: A Constructionist Approach to Mass Media and Public Opinion,” *Symbolic Interaction*,11,161-174.

Gamson,W.A.,&A.Modigliani, 1987, “The Changing Culture of Affirmative Action,” Braungart,R.G.,&M. M.Braungart, eds.,*Research in Politicai Sociology (vol.3)*,Greenwich,CT:JAI Press,137-177.

Gamson,W.A.,&A.Modigliani,1989, “Media Discourse and Public Opinion on Nuclear Power:A Constructionist Approach,” *American Journal of Sociology*,95(1),1–37.

Gamson,W.A.&D.Stuart,1992, “Media Discourse as a Symbolic Contest: The Bomb in Political Cartoons,” *Sociological Forum*,7(1),55-86.

Gans,H.,1979,*Deciding What's News: A Study of CBS Evening News,NBC Nightly News,Newsweek,and Time*,Random House.

Garfinkel,H.,1967,*Studies in Ethnomethodology*,Englewood Cliffs: Prentice Hall.

Gergen,K.,1985a, “The Social Constructionist Movement in Modern Psychology,” *American Psychologist*, 40,266–275.

Gergen,K.,1985b, “Social Constructionist Inquiry: Context and Implications,” Gergen, K.J.&Davis,K.E., eds.,*The Social Construction of the Person*,New York:Springer-Verlag,3-18.

Gitlin,T.,1979, “Prime Time Ideology: The Hegemonic Process in Television Entertainment,” *Social Problems*,26,251-266.

Gitlin,T.,1980,*The Whole World is Watching: Mass Media in the Making and Unmaking of the New Left*, Berkeley& Los Angeles:University of California Press.

Goffman,E.,1971,*The Presentation of Self in Everyday Life*,Harmondsworth:Penguin.（石黒毅訳，1974,『行為と演技　日常生活における自己呈示』誠信書房）

Goffman,E.,1974,*Frame Analysis: An Essay on the Organization of Experience*,New York:Harper&Row.

Goffman,E.,1981a,*Forms of Talk*, Philadelphia: University of Pennsylvania Press.

Goffman,E.,1981b, “A Reply to Denzin and Keller,” *Contemporary Sociology*,10(1),60–68.

Hall,S.,D.Hobson,A.Lowe,&P.Willis, eds.,1980,*Culture,Media,Language*, London:Hutchinson.

Hyman,H.H.,&P.B.Sheatsley,1947, “Some,Reasons Why Information Campaigns Fail,” *Public Opinion Quarterly*,11,412-423.

Johnson-Cartee,K.S.,2005,*News Narratives and News Framing: Constructing Political Reality*, Rowman&Littlefield Publishers,Inc.

Lecheler,S.,&C.H.deVreese, 2019,*News Framing Effects*,Routledge.

Matthes,J.,&M.Kohring, 2008, “The Content Analysis of Media Frames: Toward Improving Reliability and Validity,” *Journal of Communication*,58(2),258-279.

McCombs,M.,J.P.Llamas,E.Lopez-Escobar,&F.Rey, 1997, “Candidate images in Spanish Elections:Second-level Agenda-setting Effects,” *Journalism & Mass Communication Quarterly*,74,703–717.

McCombs,M.,D.L.Shaw,&D.Weaver,1997,*Communication and Democracy:Exploring the Intellectual Frontiers in Agenda-setting Theory*,Mahwah,NJ:Erlbaum.

McQuail,D.,1994,*Mass Communication Theory: An Introduction (3rd ed.)*,Thousand Oaks,CA:Sage.（竹内郁郎他訳，1985,『マス・コミュニケーションの理論』新曜社.）

Molotch,H.,&M.Lester,1974, “On the Strategic Use of Routine Events,Accidents,and Scandals,” *Sociological Review*,39(1),101-12.

Nisbet,M.C.,2010, “Knowledge Into Action:Framing the Debates over Climate Change and Poverty,” D’Angelo,P,and Kuypers,J.A.,eds.,2010,*Doing News Frame Analysis:Empirical and Theoretical Perspectives*,New York.Routledge,43-48.

Pan,Z.,&G.Kosicki, 1993, “Framing analysis: An Approach to News Discourse,” *Political Communication*, 10,55-75

Reese,S.D.,1990, “The News Paradigm and the Ideology of Objectivity: A Socialist at the Wall Street Journal,” *Critical Studies in Mass Communication*,7,390-409.

Reese,S.D.,2007, “The Framing Project: A Bridging Model for Media Research Revisited,” *Journal of Communication*,57(1),148-154.

Scheufele,D.A.,1999, “Framing as a Theory of Media Effects,” *Journal of Communication*,49(1),103-122.

Schutz,A.,1962,*Collected Papers(vol.1):The Problem of Social Reality*, Natanson,M.,ed.,The Hague:Martinus Nyhoff.

Shoemaker,P.,&S.D.Reese, 1996,*Mediating the Message(2nd ed.)*,New York: Longman Publishers.

Tuchman,G.,1978,*Making News: A Study in the Construction of Reality*, New York: Free Press.（鶴木眞，櫻内篤子訳，1991,『ニュース社会学』三嶺書房）

Van Dijk,T.,1988,*News as Discourse*,Hillsdale,N.J.: Lawrence Erlbaum.

Van Gorp,B.,2007, “The Constructionist Approach to Framing:Bringing Culture Back in,” *Journal of Communication*,57(1),60-78.

Wei,X.,2020,*Epistemology of News Frame(China Perspectives)*, New York , NY:Routledge.

【追記】

矢部恒彦先生は，私が法政大学に着任したときに，同じカルチュラル・スタディーズの研究者が来たとたいそう歓待してくださった。訳書のイアン・ボーデン『スケートボーディング：空間，都市―身体と建築』を恵贈いただき，街を走るスケートボーダーを撮影したフィールドワークの成果を見せていただいたりしていた。都市空間をボーダーの行為から再編しようという，実にカルチュラル・スタディーズらしい試みだったと思う。

その後，矢部先生とは，矢部ゼミが作っていた社会学部のホームページやメディア社会学科のカリキュラムなど，学務のやり取りが多くなってしまい，研究の話を深めることができなかった。矢部先生は最晩年の在外研究中にまとめられたポートランドのまちづくりの成果を，さらに展開されるつもりだったと思う。もっと研究の話を聴きたかった。